

みんなで作る
森ものがたい

2021年12月5日発行 第140号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
福岡市南区大字桧原855-4
油山市民の森管理事務所内
TEL: 092-871-6969
FAX: 092-801-1463
<http://www.morikai.org/>
mail: aburayama@morikai.org



<10/24 安全講習会>

も	表紙	1
く	活動ノート(10/3, 10/10, 10/24, 11/7, 11/21)	2~4
	特集「カブトムシの森 林床植生調査」	5~6
じ	油山のお仕事日記「想いの種を作ろう」	7
	「世話役から」(安全講習会)	7
	うん・えー会報告(10/3)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は（公財）福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。会では、随時、会員を募集しています。興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



10月3日(日)

アカマツ林

草刈り、萌芽枝刈り

11:00~15:00

◆参加者: 11名

◆内容: 午前中のうん・えー会の後、11頃より開始。道具出し、準備運動を済ませて森へ。半年ぶりの森は、草と萌芽枝が繁茂して斜面中腹の作業道は埋もれ、遊歩道も丈の高い草が両側から覆いかぶさって歩きにくい状態になっていました。夏の間の高温と長雨で、思う存分生長したようです。またイノシシが活発に活動した跡も見られました。自然の営みに圧倒されながら、まずは腹ごしらえをして、その後2班に分かれて作業に取り掛かりました。

1班はA地区とAからF地区までの遊歩道沿いの草刈り。メンバーは植生に詳しいベテランとお母さん、子どもたちです。アカマツの幼木や保護する林床植物にも目を配りながら、カマや剪定ハサミ、刈込ハサミで刈り取っていきました。遊歩道はかなりすっきりと歩きやすくなりました。白い花をつけているヒヨドリバナは“旅をする蝶”のために残しました。



もう1班はC、D地区の草と萌芽枝刈り。メンバーは体力自慢(?)の4人です。藪状態の急斜面と作業道沿いを、刈払機と長柄ガマ等を使って刈り進めました

が、直径2~3cmのウルシ科のヌルデがよきによき生えていて、ノコも使いながらの手強い作業となりました。時間が足りず刈り残しはありますが、作業道も遊歩道から確認できる状態に出来ました。



【ふりかえりより】

・久しぶりのアカマツ林で遊歩道がほとんど見えなかったのが、少しスッキリしました。斜面の茂みにマツの幼木が隠れていたのが嬉しかったです。

・くつつき虫がたくさんいて大へんでした。草も最初はぼうぼうで大へんでした。



特別活動

10月10日(日)

カブトムシの森 植生調査

9:30~13:00

◆参加者: 3名

◆内容: 5m×5mの区画4つを調査。蕾、花、果実の付いている植物の種類と被度を調べました。今回の調査では19種類確認できました。メンバーの1人が、イノコズチやノギクの仲間等、同定が難しい種類を見分けるポ

イントを整理した資料を準備してくれていたため、ルーペで確認しながら同定しました。今回、セイタカアワダチソウが初めて出現しました。伐採が進み、林床の日当たりがよくなってカブトムシの森に入ってきたようです。

【ふりかえりより】

・資料のおかげでイノコズチとヒナタイノコズチの違いがバッチリ。(コロナ禍の活動休止で)草刈りができなかったのでイネ科がはびこっていました。

・野草好き3人でゆっくり楽しく調査ができました。

・丁寧に植物を見るよい機会です。

10月24日(日)

安全講習会

9:30~15:30

◆参加者: 20名

◆内容: センター前で参加者の確認とミーティングを行い、準備運動と道具準備の後、カブトムシの森へと移動。到着後、C地区のあずまや前で座学を行いました。

座学では、刃物の使用や樹木の伐採など、森会の活動は常に危険が伴うことを認識したうえで、会員ひとりひとりが安全作業の知識を身に付け、みんなで気を付けることが大事であることを確認しました。そして、活動時の基本ルールと特に大きなケガにつながりやすい伐木作業の手順と注意点を学びました。





その後、伐倒時のロープ掛けにも使うロープの結び方（『もやい結び』と『引き解け結び』）を練習しました。

ロープワークの後はA地区へ移動し、以前カブトムシの森整備作業時に発生したヒヤリハット事例について、現地で状況を確認しました。伐倒木の高さを正確に把握することの難しさや、地形によって周囲の作業者が見えにくい場合があること等を実感。周囲への注意や伐木作業の基本ルールの徹底が大切であることを学んで午前の部を終了しました。午後は、まず備品管理担当者より各道具の役割と使い方、使用上の注意点についての説明を受けました。その後、2班に分かれての伐木実習です。

経験の浅い会員を中心としたA班は、B地区に移動して、直径15cm前後のヤブツバキの除伐を行いました。ベテラン会員の指導



の下、受け口、追い口切りに挑戦しました。伐採前の準備作業をしっかり行うことの大切さや、受け口・追い口を正しく切る難しさ等を体感しました。



もう1班は経験のある会員を中心に、C地区でロープを使った伐木手順の確認を行いました。受け口切りに至る前のロープ掛けや準備作業等、時間をかけて再確認し理解を深めました。

その後、A班が伐倒したヤブツバキの切り戻しと枝処理を行ったところで午後の作業を終了し、片付け、振り返りを行い、センターにて道具整備後、解散となりました。

【ふりかえりより】

・木の伐採までの流れと、内在する危険がよくわかりました。ヒヤリハットのあった現場での説明で、作業の流れやリスクもよくわかりました。

・青空教室で、実際の木を使い、高さの目安など、分かりやすく教えて下さり、あっという間でした。

・ロープワークと滑車の使い方が大変勉強になりました。

・きょう木をきって、たのしかったです。

・もやい結びむすかしかったです。YouTubeで勉強します。また、伐木の際は樹高の2倍を半径とする円形の中に入らないこと、勉強になりました。

11月7日（日）

カブトムシの森 クヌギ伐採
（楢木の確保、萌芽更新）

9：30～15：30

◆参加者：6名

◆内容：今年度はシイタケ菌駒打ちが、森会単独の活動となったので、作業しやすい直径20cm前後の細目の木を伐採することにしました。その為、楢木用にはB、C地区で4本伐採、その他萌芽更新の為に、A地区で直径30cm級の木を2本伐採しました。



伐採に際しては、先日実施した安全講習会を振り返りながら、ロープの扱いの習熟にも努めました。

伐採した木はA地区のものも含め、来年1月30日に予定されている活動で材処理をします。今日は参加者が少なかったため、予定していたA地区の草刈りはできませんでした。

【ふりかえりより】

- ・ロープを張っての伐木。初めての経験でした。
- ・少人数での作業でしたが、気持ちの良い秋の空の下、1本ずつ基本通りの伐り方をしてたくさん伐り倒しました。カブ森の空間が広がり、風景が少し変わりました。
- ・少人数での伐倒作業は大変勉強になりました。
- ・天気に恵まれ目標の本数も確保できホッとしました。
- ・ロープ掛け、追い口位置(高さ)、勉強になる伐倒となりました。



11月21日(日)

アカマツ林

9:30~16:00

◆参加者：13名

◆内容：晩秋の油山。沢山の紅葉狩りの来園者が予想されたため、本日の活動参加者は乗り入れの車の台数を減らすべく、料金所裏駐車場から1台に乗り合わせる等して自然観察センターに集合しました。

ミーティング・道具準備・準備運動の後、全員で活動エリアの状況を見ながら作業内容を確認しました。10時半頃作業開始。草・萌芽枝刈りはA地区およびD~F

地区の遊歩道沿い、D地区の作業道で行いました。



アカマツの成長のため、幼木の周辺を刈り取り、埋もれていた実生の日当たりを良くしたりしながら作業を進めました。遊歩道もきれいになって歩きやすくなり、カマや箒を持って頑張った子どもたちも満足そうでした。また作業道や、毎年恒例の高校生の研修受入れのための区画の整備も出来ました。

植生遷移を防ぐための広葉樹の除伐は、D地区斜面下のヤード近くで行いました。午前中は直径20cm、午後は30cm超の2本のタブノキを伐りました。最後は楔を打ってロープを引いて倒しました。



最初の1本の幹・枝処理をしながら、2本目に取り掛かりましたが、14時半頃から雨がポツリポツリ。追い口切りをする頃には本降りとなってしまったものの、皆で協力し怪我無く無事に作業を終えることが出来ました。

天気が下り坂に向かう予報が出ている時の伐木作業は、直近の予報をこまめに確認して判断するよう今後に活かしていきたいと思います。反省もある中、一方で作業、撤収、道具整備とチームワークの良さに心強さと嬉しさを感じました。

【ふりかえりより】

- ・道路沿いの草刈り、支障枝を切るなどしました。子どもたちがセンボンヤリを「これは刈っちゃいけないよね。ふーっと飛ぶものよね」と残しているのに感激しました。
- ・草刈りをしているとアカマツの幼木を見つけるので、見つけるたびに周囲をスッキリ刈り取ることに夢中になりました。アカマツの葉が少し黄色になっていましたが、大丈夫だと聞いて安心しました。
- ・草かりがたのしかったです。
- ・朝は水の森の方をしました。道がきれいになってよかったです。
- ・森会で雨の中の伐倒は初めてでしたが、無事怪我もなく終わられホッとしました。



特集 カブトムシの森 林床植生調査の報告

カブトムシの森のA地区では、保全活動が林床植生に与える影響を調べるために、林床植生調査を行っています。2015年度から年2回(春と夏)、あまり種が見られなかったため、2016年度から春と秋に行っています。

今年度の春は「非常事態宣言」で市民の森閉園に伴う活動の休止にて未調査、秋(10月10日)の調査だけとなりました。

調査は、10m×10mの調査区を4つに分けて、5m×5mの区画4つ(調査区I~IV)で行いました。蕾・花・果実が見られる種を記録すると共にそれぞれの植物の被度の計測を行いました。

被度は、階級の大きい方から、5、4、3、2、1、+の6つに分けられます。

秋の調査表を次のページに示しています。

今年の秋の調査では、19種類を確認する事ができました。多くは、過去の調査で見られた種です。

昨年に続き、今年の秋も種数は少なめですが過去5年を見てもほぼ安定した種数です。新たに2種が確認できました。1種はイネ科のミヤマササガヤ、もう1種は、あまりうれしくないですがセイタカアワダチソウです。

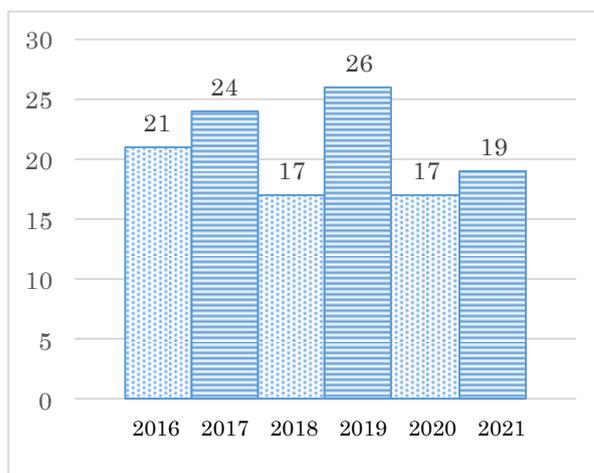
調査の様子



シュウブソウの小さな花



■過去6年の出現種数の推移



カブトムシの森は、一斉伐採を行うなどの大きな攪乱を行わず徐々に伐採を進めてきたのに合わせて徐々に増加傾向にあるように見えます。

一昨年より実施している新五ヶ年計画では、5年をかけてクヌギを全伐し、クヌギの更新とその他の植物種を多様化するための方策を検討・実施していきます。

調査で見つけたツルニンジンの花



カブトムシの森 林床植生調査

実施日: 2021/10/10

実施者: 鎌田 柴戸 吉田

出現種					被度の階級値(区画)				形態
目	科	亜科	属	種	I	II	III	iv	
オモダカ目	サトイモ科		テンナンショウ属	マムシグサ		+			果実
イネ目	イネ科		ススキ属	ススキ			+		花
イネ目	イネ科	キビ亜科	チヂミザサ属	チヂミザサ	+	+	+	+	花
イネ目	イネ科	イネ亜科	ミヤマササガヤ属	ミヤマササガヤ	+	+	+	+	花
イネ目	カヤツリグサ科		スゲ属	ナキリスゲ	+			+	果実
ツユクサ目	ツユクサ科	ツユクサ亜科	ツユクサ属	ツユクサ	+	+	+	+	花・果実
マメ目	マメ科	マメ亜科	ヌスビトハギ属	ヌスビトハギ	+	+	+	+	果実
マメ目	マメ科		ヤブマメ属	ヤブマメ		+	1		果実
バラ目	バラ科	バラ亜科	キイチゴ属	フユイチゴ		+	+	+	蕾
バラ目	バラ科	バラ亜科	キンミズヒキ属	キンミズヒキ				+	果実
フウロソウ目	フウロソウ科		フウロソウ属	ゲンノショウコ	+	+	+	+	果実
ナデシコ目	ヒユ科		イノコヅチ属	ヒカゲイノコヅチ		+	+		果実
ナデシコ目	タデ科		ミズヒキ属	シンミズヒキ	+				花・果実
ナデシコ目	タデ科	ミチヤナギ亜科	イヌタデ属	イヌタデ		+			蕾・花・果実
ナデシコ目	タデ科	ミチヤナギ亜科	イヌタデ属	ミズヒキ		+	+	+	花
キク目	キク科		アキノキリンソウ属	セイタカアワダチソウ	+				花
キク目	キク科	キク亜科	シオン属	シュウブンソウ	+	+	+	+	花・果実
キク目	キク科	キク亜科	ヨモギ属	ヨモギ	+		+	+	花・果実
キク目	キキョウ科		ツルニンジン属	ツルニンジン		+	+		蕾・花・果実

被度階級の階級値
5
4
3
2
1
+

調査5m四方	
3/4以上	
1/2~3/4	
1/4~1/2	
1/4~1/10	
10%未満1%以上	1.6m四方
1%未満	0.5m四方未満

IV	III
I	II

油山のお仕事日記

「想いの種を作ろう」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

2021年の秋は紅葉がとってもきれいです。赤や黄色の葉っぱから、さらさらと木漏れ日など降りそそぐと、なんとも絵本の世界みたいだなと想像がふくらみます。

そんな芸術の秋たる油山市民の森で、この秋、福岡市美術館と一緒にワークショップを行いました。タイトルは「想いの種を作ろう!」です。このワークショップはアーティストの小林重予さん(1957-2017)が全国各地で行っていたものを福岡市美術館が再構成したものです。誰かに届けたい想いを植物の種に見立てて立体作品を作ります。どういうこと…?

まず、植物の種には様々な形があります。風によって遠くへ行きたい形。生きものにひっつきたい形。つまり種の想いが結晶となった形。そんな植物の種の形をモチーフに、今度は自分の心の中にある「想い」を形にしてみよう、というわけです。これはおもしろい。

参加者は大人も子供も手を止めることなく、イメージが自由自在に爆発していたのが印象的でした。油山の自然と、美術館の皆さまが組み立てた流れがパシッとハマって、思い思いの想いのままに、さくさくこねこねと楽しくて素敵な作品が出来上がっていきました。

自分も作品を作りましたよ。この種はぼったりと重たいので、熟すると木からぼとりと落ちてその場に根を張ります。ただ、ぼとり、と落ちます。それだけの種なのです。それだけなのですが、風に乗るための器官を3本だけ持っているのです。3本だけなので、この重たい種は風に乗ることはできません。だけどころちゃんと持っているのです、風に乗るための形を。この種はそのことがちょっぴり誇らしいのです。だからちょっとスキップしています。そんな想いをワークショップで発表しましたところ、皆様の頭の上にはハテナマークがくっきりと浮かんでいました。



「世話役から」

安全講習会

世話役 中嶋 宏海



森会に入会したのは、大学卒業後、福岡に帰郷して半年くらい過ぎたころのことでしょうか。大学時代は雄大な山々の中で植生調査を行うなど、常に自然と触れ合っていましたので、福岡でも何か自然とつながっていたいという思いから、広報誌で目にした森会の体験活動に参加したのがきっかけでした。

最初のころは活動に参加して体を動かす方が主体でしたが、2013年からはアカマツ林調査の世話役を担当し、2020年からは安全講習会の世話役も仰せつかりまして、現在に至っております。

そのため、最近では世話役として全体を見るほうが多くなり、自分でノコを引いたり体を動かしたりする場面が減って寂しくも感じていますが、自然の中でみんなと作業する森会の活動を楽しんでいます。

安全講習会の世話役を担当することとなり、森会における安全について、改めて自分で振り返ってみました。その時気づかされたのは、森会の運営には安全への取り組みがしっかり根づいているのだなということでした。

安全に活動するため、会員に徹底させる森会スタイル、世話役や安全世話役など各係を設けて管理する体制、参加者全員で行う活動前のミーティングと活動後の振り返り、問題点や課題等を話し合い改善につなげるうん・え〜会、活動の実施計画を役員や関係者で事前に確認を行うことなど挙げればきりがありません。

会の活動では、様々な道具を使い保全作業などをおこないます。安直に「危険なことはしない」というなら活動自体が成立しません。その中で会の先人たちが、危険と上手につきあい、安全の確率をあげることをこれまで考えてこられた賜物だと思います。

相手が誰であれ危ないことをしていたら注意する。また、どんなに大変な作業の後でも絶対に道具整備はかささないといった先輩会員の姿にはいつも頭が下がります。

安全講習会では、こうした森会の安全に対する考えと安全作業に係る知識と技術を伝えて、会員の皆さんに理解していただくことで、さらに安全の確率を上げていければと思っています。みんながいつも笑顔で活動を終えて帰れるよう、会員みんなで安全作業に努めていきましょう!

うん・え一会報告

2021年10月3日(日) 9:30~10:30

出席者：9名

1. 役割決定、資料確認

2. 7~9月 活動報告(詳細は会報第139号参照)

7/4(日) カブ森作業

7/25(日) カブ森昆虫調査

8/1(日) 草木染：中止、世話役で「叩き染め」実施

8/15(日) 木工教室：新型コロナ対策の為中止。

9/5(日) うん・え一会 延期、備品管理 中止。

3. 7~9月 特別活動報告

7/18(日) カブ森・草刈

4. 9~12月 活動予定

9/26(日) 削り馬体験会 中止

10/3(日) うん・え一会、アカマツ林作業

10/17(日) カブ森作業：中止、植生調査：別日

10/24(日) 安全講習会：10/17を日程・内容変更

11/7(日) カブ森作業：予備日 11/14(日)

11/21(日) アカマツ林作業

12/5(土) うん・え一会、アカマツ林作業

12/12(日) 納会、アカマツ林作業・柏陵高校研修準備

：納会は、年度内を振り返る等の内容として、2020年度と同等とする

5. その他

5-1 ボランティア保険について

- ① 社協 ボランティア保険—従来の会員の保険。
- ② グリーンボランティア保険—チェーンソー、刈り払い機等を使用する活動に掛ける保険。
- ③ 2021-7/5頃、社協 ボランティア保険について、「機械を年間1回でも使用するボランティア活動(団体)は、対象外である」ことが判明。
- ④ 一方会員の減少、高齢化等に伴い、機械を使用する活動が増えてきているが、グリーンボランティア保険は契約に手間がかかり過ぎ対応が困難、更に年間活動は今も進んでいることから、来年を待つ時間が無いということで役員間で検討を進めた。
- ⑤ スポーツ安全保険—会員全員(幼児を除く)に対応可能な保険として、加入しました。

検討事項 保険料が上がる、2022年度の会費に反映する、会の残高で賄う 等々

保険加入の担当者を決める。12月のうん・え一会で協議し2022年3月の総会で決定。

5-2 助成の対象経費について →配布資料で説明

5-3 2022年度以降の勉強会について →アンケート実施はOKとする。

5-4 安全講習会 →上記4項に記載の通り、10/24(日)に実施する。

6. 発送作業 ①会報第139号

活動予定(2021年12月~)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・え一会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間：9:30集合 ~ 15:30解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい

服装)でご参加ください。必要な持ち物は

いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参ください。

主な感染防止対策

- ・参加する人は事前に担当者に連絡する。
- ・発熱等兆候が見られる人は参加を控える。
- ・マスクを着用し必要に応じて手洗い・消毒を行う。
- ・感染者が発生した時は、関係機関への個人情報の提出に協力する。

12月12日(日) 納会

カブトムシの森、アカマツ林にて今年の作業を皆で振り返り、これからの作業に思いを巡らし夢を語り合ひましょう。

1月16日(日) アカマツ林作業

D、E地区での広葉樹の除間伐及び作業道補修用材の確保を行います。

1月30日(日) カブトムシの森作業

除伐、草刈り、落ち葉掻きをします。

2月6日(日) アカマツ林幼木調査

アカマツ林A~Fの各地区でマーキングしているアカマツ幼木の大きさなどを計測する調査を行います。

2月13日(日) カブトムシの森作業

除伐、草刈り、落ち葉掻きをします。

2月27日(日) シイタク駒打ち(特別活動)

伐採したクヌギを玉切りしてシイタク菌を打込みます。

3月6日(日) 総会

当年度議題—活動実績報告、世話役振り返り、会計報告、次年度議題—役員、会員、活動、予算の関連

3月27日(日) アカマツ林作業

広葉樹の除間伐及び作業道補修を行います。

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊発行

編集担当：川上寛、西岡恵子、鎌田隆、静間純、

松雪清人 印刷担当：小川真樹
